

患者様の車椅子座位を快適にしよう

医療法人 宝生会 PL病院 8階病棟 水上 恭子

1. はじめに

PL病院は、大阪府南東部の富田林市に位置する370床の急性期病院です。大阪府以外にも和歌山県と奈良県の一部を診療圏とする地域の中核病院として地域医療のために尽力しています。

私たち8みつサークルは、看護師5名 看護助手8名の13名で構成された、結成3年目のサークルです。院長方針である『心を尽くす親切を』をモットーに、力を合わせてQCサークル活動に取り組みました。

2. テーマ選定

メンバー全員で業務上の問題点を出し合い、マトリックス図を用いて評価した結果『患者様の車椅子座位保持が出来ない』が高得点となりました。8階病棟では、寝たきりをなくすため、個々の患者様に合った離床時間を決め車椅子に移乗しています。患者様のなかには車椅子に座っていると横に傾いたり、ズレたりしてしまうことがあります。

しかし、このように車椅子座位保持が出来ない患者様に具体的な対策を行っていません。患者様にとって安全で安楽な車椅子座位保持が出来るよう、このテーマに取り組みました。

◎・・・3点 ○・・・2点 △・・・1点															
評価点	0.8	0.9	1.0	ウェイトづけ		1.0	0.9	0.8	0.7	1.0	1.0	評価点	総合評価	着手順位	
	CSの向上			院長方針	問題点	評価項目	改善の要求度				サークル活動				
	心を尽くす親切を	業務改善	サービス水準の向上				重要性	緊急性	経済性	効果	解決可能				期間内終了
8.1	◎	◎	◎	患者様の車椅子座位保持ができない		◎	◎	○	◎	◎	◎	15.4	23.5	1	
3.6	△	○	△	オムツ車が使いにくい		○	△	△	○	◎	◎	11.1	14.7	4	
3.6	△	○	△	器材庫から物が取り出しにくい		○	○	△	○	◎	◎	12.0	15.6	2	
5.5	△	◎	○	オムツ交換に時間がかかる		○	○	△	○	○	○	10.0	15.5	3	

図1. テーマ選定のマトリックス図

作成日 平成20年4月23日

作成者 水上

3. 活動計画

現状把握と要因解析に時間をかけたため、計画が遅れました。

表1 活動計画表	計画 実施 会合 ★									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	主担当者		
テーマ選定								稲垣・木原		
現状把握								野村・横田		
目標設定								水上・丸谷		
要因解析								古厩・佐野		
対策立案								堀家・岩本		
対策実施								堀家・岩本		
効果確認								杉本・松岡		
標準化								杉本・松岡		

作成日 平成20年4月28日

作成者 丸谷

調査期間:平成20年5月12日～5月26日までの2週間

調査方法:1. スタッフ(26名)の意識調査(アンケート)を行う。

2. 標準型の車椅子を使用され、自力で傾きやズレを戻せない患者様を対象とする。

午後12時から12時30分・12時30分から13時の間に調査可能な患者様4名を対象に行う。

調査内容:①体勢を戻した回数を調べる。 ②傾きやズレの長さを測定する。

4. 現状把握

*病棟の車椅子使用状況

(平成20年5月12日現在)

病棟の車椅子の数	...	標準型	20台
		リクライニング型	10台
車椅子使用状況	...	標準型	15名
		リクライニング型	20名
車椅子移乗状況	...	自己にて移乗	3名
		半介助で移乗	8名
		全介助で移乗	24名
自己にて車椅子移動			3名
標準型の車椅子使用で自力で体勢を整えることができない			8名

サークル名 8みつサークル (2006年4月結成)					
リーダー氏名 (職種)	水上 恭子 (看護助手)	所属部門	診療 (看護) 医療技術 事務管理	月あたり会合回数	4回
リーダー経験年数	1年8ヶ月		その他 ()	平均会合時間	46分
メンバーの数	計13名 うち男 名 うち女 13名	QCストーリー	問題解決型 課題達成型	平均会合出席率	62%
		活動内容	質 能率 CS 安全 モラル コスト	テーマ歴 (このテーマで)	2件目

調査1

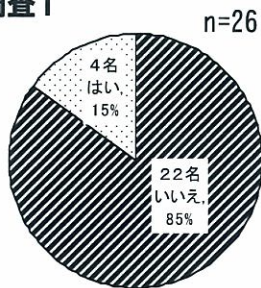


図2.車椅子座位保持が
出来ているか

作成日:平成20年5月15日 作成者:野村

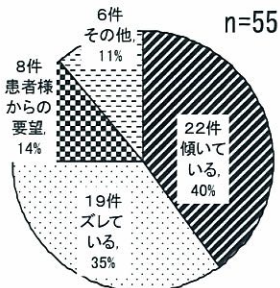


図3. 出来ていないのは
どんな時か

作成日:平成20年5月15日 作成者:野村

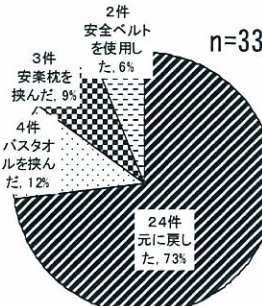


図4. どのように対応
しているか

作成日:平成20年5月15日 作成者:野村

1調査結果:スタッフの85%が座位保持が出来ていないと回答した。患者様が傾いたりズレたりされていても、その場しのぎで具体的な対応をしていないことがわかりました。

調査2-①

表2 体勢を整えた回数表

担当スタッフ	佐野・古屋	木原・松岡	丸谷・岩本	水上・河合	稲垣・杉本	野村・福田	佐野・塚家	計測結果
調査日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日	5月18日	
時間	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00
Sさん	1	1	1	1	0	1	1	5
Eさん	1	0	0	1	1	1	1	5
Yさん	1	0	0	1	1	1	1	6
Tさん	1	1	1	1	1	1	1	7
30分間の回数	4	2	2	3	4	3	4	24
合計	6	4	7	6	6	8	8	45

単位 (回)

2-①調査結果:30分間の平均は0.80(80%)となり、おおむね30分に1回の割合で体勢を整えていることがわかりました。

調査2-②

表3.《身体への傾きの計測表》

担当スタッフ	野村・塚家・木原	岩本・水上・杉本	稲垣・河合・福田	佐野・塚家・松岡	岩本・松岡・塚家	丸谷・水上・木原	水上・稲垣・塚家	計測結果
調査日	5月19日	5月20日	5月21日	5月23日	5月24日	5月25日	5月26日	
時間	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00
Sさん	右12	右12	右40	右35	0.0	0.0	右45	右40
Eさん	0.0	0.0	右40	右10	右30	右50	右15	右10
Yさん	0.0	0.0	左85	左40	左25	左20	左20	左35
Tさん	左20	左25	左20	左10	左90	左75	0.0	左10

作成日 2008年5月26日 作成者 水上

表4.《身体へのズレの計測表》

担当スタッフ	野村・塚家・木原	岩本・水上・杉本	稲垣・河合・福田	佐野・塚家・松岡	岩本・松岡・塚家	丸谷・水上・木原	水上・稲垣・塚家	計測結果
調査日	5月19日	5月20日	5月21日	5月23日	5月24日	5月25日	5月26日	
時間	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00
Sさん	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	2.0
Eさん	4.8	6.5	5.5	5.5	3.0	7.0	1.2	4.0
Yさん	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.5	3.0	0.0
Tさん	6.5	5.5	9.0	1.0	4.0	4.0	3.2	3.2

作成日 2008年5月26日 作成者 水上

2-②調査結果:30分間の傾きの平均は3.3cm、ズレの平均は2.5cmとなりました。また、傾きの最大値は9cmで4名の最大値の平均は7.1cm、ズレの最大値は9cmで4名の最大値の平均は5.8cmとなりました。以上の結果から、かなりの傾きやズレが生じており患者様に苦痛を与えていることがわかりました。

5. 目標設定

何を 傾きとズレの最大値を
いつまでに 10月30日までに
どうする 傾き...9cmから3cm以内にする
ズレ...9cmから3cm以内にする

6. 要因解析

(根拠)

患者様は麻痺側に傾く傾向があり、車椅子座位中に食事や歯磨きをして身体を動かすため全くズレや傾かないということは難しい。全く動かないように固定してしまうことは患者様に苦痛を与えてしまう。車椅子座位を快適にするためには、約3cmの余裕が必要であると考えられる。よって3cm以内とする。

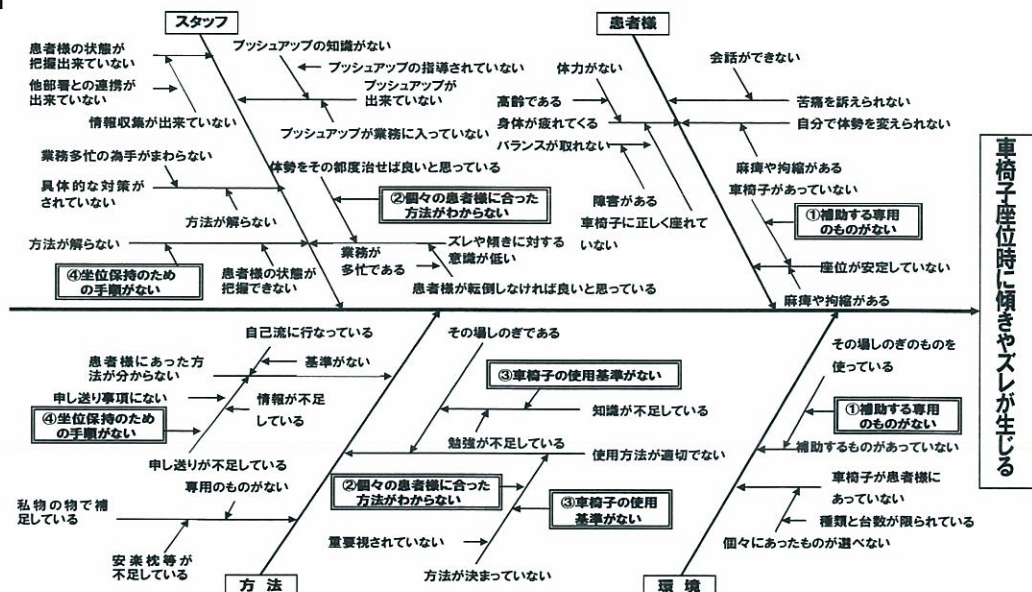


図5.「車椅子座位の傾きやズレが生じる」の特性要因図

作成日 平成20年8月10日 作成者 木原

7. 重要要因の検証

表5. 重要要因の検証

	重要要因	検証方法	結果	考察	結果
①	補助する専用のものがない	現在使用しているものを調査	安楽枕、バスタオル、私物クッションを使用しているが、安楽枕はサイズが合わずバスタオルは安定せず、私物クッションは不潔になっている	座位保持専用のクッション・カバー・座布団が必要	○
②	個々の患者様にあった方法が分からない	スタッフ全員に聞き取り調査	スタッフ27名中22名が個々の患者様に合った方法が分からず、統一されていないことが分かった	個々の患者様に合った座位保持方法の表示が必要	○
③	車椅子の使用基準が分からない	スタッフ全員に聞き取り調査	スタッフ27名中24名が方法を知らなかった	車椅子使用基準が必要	○
④	座位保持のための業務手順が決まっていない	スタッフ全員に聞き取り調査	スタッフ27名中27名が分からないと答えた	車椅子座位に関する手順表が必要	○

作成日 平成20年8月16日 作成者 稲垣

8. 対策の立案と実施

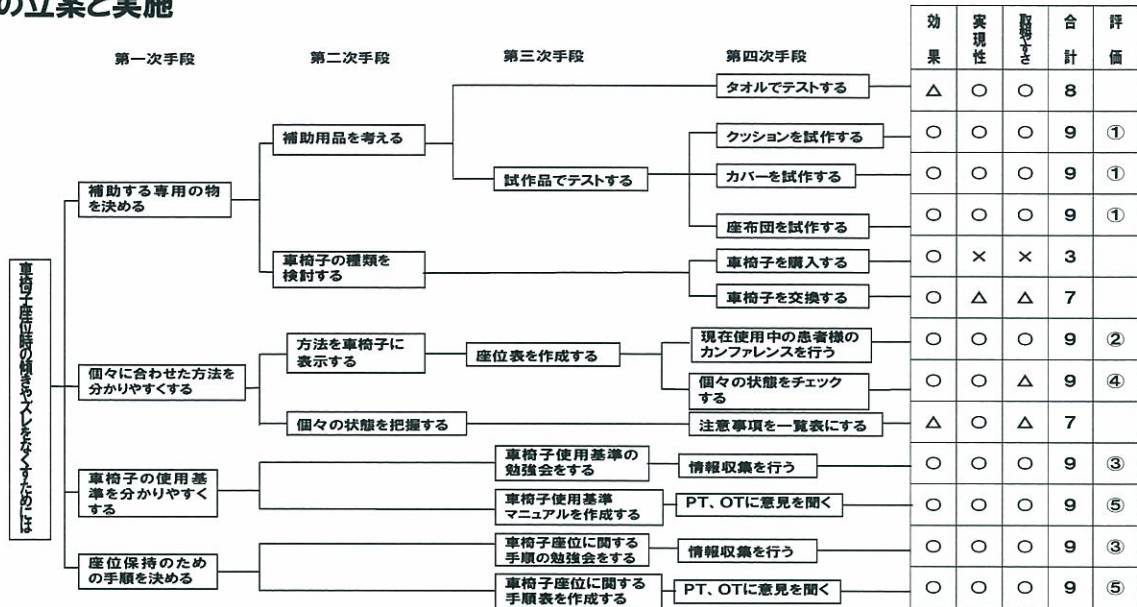


図 6. 「車椅子座位時の傾きやズレをなくすためには」系統図 作成日 20 年 10 月 13 日 作成者 佐野 ○:3点 △:2点 ×:1点

表6. 対策表

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
①	クッション・カバー・座布団を	補助する専用の物を決めるために	QCメンバー全員が	9/20までに	カンファレンスルームで	試作する
②	現在使用中の患者様のカンファレンスを	個々に合わせた方法を分かりやすくするために	稲垣・古屋・松岡・河合・福田が	9/20までに	結所で	行う
③	情報収集を	車椅子の使用基準を分かりやすくするために 座位保持のための手順を決めるために	丸谷・水上・杉本・堀家・木原が	9/15までに	院内で	行う
④	個々の状態を	個々に合わせた方法を分かりやすくするために 車椅子の使用基準を分かりやすくするために 座位保持のための手順を決めるために	入院時担当の看護師が	9/15までに	結所で	チェックする
⑤	PT、OTに意見を		岩本が	9/15までに	結所で	聞く

作成日 平成20年9月5日 作成者 松岡

9. 効果の確認

調査期間:平成20年9月23日～9月29日までの7日間

調査方法:標準型の車椅子を使用され、自分の力で傾きやズレを戻すことの出来ない患者様を対象とする。

午後12時から12時30分・12時30分から13時の間の傾きやズレの長さを測定する。

この期間この時間帯に測定可能な患者様2名を対象とする。

《調査結果》

表7. 身体傾きの計測表

	担当スタッフ	岩本・堀家・河合	佐野・古屋・福田	丸谷・水上・松岡	野村・水上	丸谷・稲垣・木原	岩本・杉本・木原	佐野・杉本・河合	計測結果
調査日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日		
時間	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	傾いた時の 平均値 最大値
Sさん	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Yさん	左2.0	0.0	0.0	0.0	左2.0	0.0	1.0	0.0	左1.7 左2.0

作成日:平成20年10月29日 作成者:堀家

表8. 身体ズレの計測表

	担当スタッフ	岩本・堀家・河合	佐野・古屋・福田	丸谷・水上・松岡	野村・水上	丸谷・稲垣・木原	岩本・杉本・木原	佐野・杉本・河合	計測結果
調査日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日		
時間	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	12:00~12:30	12:30~13:00	ズレた時の 平均値 最大値
Sさん	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Yさん	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

作成日:平成20年10月29日 作成者:杉本

*Sさんは、ふらつきがある為車椅子カバーの左右にバスタオルを入れました。

*Yさんは、片麻痺がある為麻痺側の足をフットレストにしっかりと乗せ、プッシュアップを行いました。

傾きの最大値・・9cm⇒2cmに
ズレの最大値・・9cm⇒0cmに
目標値である3cm以下となり

目標達成!!

しました。

- 《有形効果》大きく傾いたり、ズレたりすることがなく目標が達成できた。
 プッシュアップを業務化することができた。
 《無形効果》座位保持に関するスタッフの意識や知識の向上につながった。
 《波及効果》今回は標準型の車椅子を対象に行ったがリクライニング型にも適応できた。
 傾きやズレがなく食事をしていただくことができ、食事の時間が短縮された。
 患者様のなかには体勢が安定したことで、自力で車椅子移動され ADL の向上につながった。
 患者様から「ありがとう」と感謝の言葉をいただき、喜んでいただくことができた。

10. 標準化と管理の定着

表9. 標準化と管理の定着

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
標 化	座位保持表に記入漏れがないかを	継続して行うために	QCリーダーが	毎月末に	病棟で	チェックする
管 理	車椅子座位表を	継続して使用するために	QCサブリーダーが	毎月末に	病棟で	破損がないか点検し、破損があれば補修する
教 育	車椅子の使用基準と座位保持の手順を	新しいスタッフが理解できるように	主任が	新しいスタッフの業務説明時に	詰所で	説明する

作成日 平成20年10月30日 作成者 古屋

11. 追跡調査

調査期間:平成21年1月19日～1月25日までの7日間

調査方法:標準型の車椅子を使用され、自力で傾きやズレを戻すことの出来ない患者様を対象とする。

午後12時から12時30分・12時30分から13時の間の傾きやズレの長さを測定する。

この期間この時間帯に測定可能な患者様4名を対象とする。

《調査結果》

表10. 身体の傾きの計測表

単位(cm)

担当スタッフ	岩本・堀家・杉本	野村・堀家・杉本	丸谷・堀家・福田	佐野・水上・古屋	稲垣・水上・河合	野村・河合・松岡	佐野・稲垣・堀家	計測結果
日付	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月23日	1月24日	1月25日	
時間	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	傾いた時の 平均値 最大値
Yさん	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0
Kさん	左3.0 左1.8	左1.2 左1.0	左1.0 左1.0	0.0 左1.0	左1.0 左1.5	0.0 左2.0	0.0 0.0	左1.5 左3.0
Oさん	左1.0 左1.0	左2.7 0.0	左1.0 左1.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	左1.3 左2.7
Eさん	左1.5 左3.0	0.0 0.0	0.0 左1.0	0.0 左1.0	左2.0 左2.0	0.0 左2.0	0.0 0.0	左1.8 左3.0

作成日 平成21年1月30日 作成者 水上

表11. 身体のズレの計測表

単位(cm)

担当スタッフ	岩本・堀家・杉本	野村・堀家・杉本	丸谷・堀家・福田	佐野・水上・古屋	稲垣・水上・河合	野村・河合・松岡	佐野・稲垣・堀家	計測結果
日付	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月23日	1月24日	1月25日	
時間	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	12:30~13:00 13:00 13:30	傾いた時の 平均値 最大値
Yさん	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0
Kさん	3.0 2.5	1.8 0.0	1.0 1.5	0.0 1.0	0.0 1.0	0.0 2.0	0.0 0.0	1.6 3.0
Oさん	1.0 0.0	3.0 0.0	1.0 1.2	2.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	1.6 3.0
Eさん	2.0 2.5	2.0 0.0	0.0 2.0	0.0 1.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	1.9 2.5

作成日 平成21年1月30日 作成者 水上

前回の調査から4ヶ月経ったが、今回の調査結果から傾き・ズレともに目標値である3cm以内となり、継続して行なわれていることが分かった。

12. 反省と今後の課題

表12. 反省と今後の課題

	良かった点	悪かった点
テーマ選定	患者様の苦痛を軽減できた。	
活動計画	計画通りに進めることは出来なかったが、メンバーが協力し、活動を終えることができた。	現状把握と要因解析に時間がかかった。
現状把握	話し合いを繰り返すことによって、良い視点で調査をすることが出来た。	計測方法を決めるのが難しかった。
目標設定	妥当な目標を設定することができた。	目標値を決めるのが難しかった。
要因解析	話し合いを繰り返すことによって、問題点が明確になった。	要因をまとめるのに時間がかかった。
対策立案と実施	効果的な対策をたて実施することが出来た。	
効果の確認	目標を達成することが出来た。	対象患者様が少なくなりました。
標準化と管理の定着	今後も継続可能なものとなった。	
今後の課題	車椅子を利用される患者様がこれからも快適に過ごしていただけるように活動していきたい。	

作成日 平成20年10月30日 作成者 岩本